

瀬戸内 流通の歴史紹介

瀬戸内海の島々や港に焦点を当て、船を使った流通など地域の歴史を詳しく紹介した本を三豊市高瀬町の歴史研究家が作製した。織田信長、豊臣秀吉、徳川家康らが与えた朱印状が残る丸龜市の本島や、大坂城築城時の石丁場跡が多く残る小豆島など35カ所を取り上げた。写真や古地図などを多く取り入れ、内容が一目で分かるよう仕上げている。

本を作ったのは、小豆島地域の採石遺構などを調べている小豆島石丁場調査委員会の調査団長、橋詰茂さん(73)＝元徳島文理大文学部教授＝。大学に在籍していた直近の約10年間で調査研究してきたことを地域に還元しようと「瀬戸内の島と湊歴史探訪」というタイトルで一冊にまとめた。県内では本島、小豆島のほか、直島や栗島などの島に加え、宇多津、多度津、觀音寺、仁尾(三豊市)、引田(東かがわ市)など港町として栄えた地域に着目。小豆島では、江戸時代に諸大名が大坂城築城時に大量の石を確保するため、島内各地に石丁場を求めていた。石には誰が切り出したかを示す刻印が刻まれてお

小豆島石丁場調査団長 橋詰さんが本作製



瀬戸内海の島と港にスポットを当て、各地域の歴史を紹介した「瀬戸内の島と湊 歴史探訪」

橋詰さんは「地元のことには知つていそうであまり知らないもの。本を片手に気になつた島や港を訪れてほしい」と話している。

B5判フルカラー115ページで千部を発行。価格は1800円(税別)。Amazonで取り扱っている。問い合わせは発行の美巧社(高松市)へ087(833)5811。

10年研究、島と港に焦点